

## 「好時節」

千葉県 總寧寺住職 照井文隆

うららかな春の好時節となりました。「日本の春は黄色から始まる」ご本山でお世話になったご老師のお言葉通り、私たちの身の回りにはたくさんの黄色い花が咲き始めました。どこでも出会える黄色い花の代表はタンポポでしょう。タンポポの花言葉は「真実の愛」と「別離」です。

### タンポポの思い出

もう20年以上も前、春の盛りの暖かな夕方のことでした。私の前を小さな女の子とお母さんが歩いていました。「あ、タンポポだ」女の子の声に足元を見ると道路の塀のほんの小さなすき間にタンポポの花が咲いています。黄色い花と真っ白な綿毛。女の子がまん丸の綿毛を一本抜いて吹こうとすると、お母さんがそれを止めて言いました。「待って、ほら、あそこにしましょう」お母さんの指さす先には小さな空き地がありました。「たんぽぽ、いっぱい生えるといいわね」「うん、いっぱい咲け〜」女の子は元気よく綿毛を吹き始めました。風に乗って飛んでゆく白い綿毛…私は、何かうれしくなって、自分の足元の綿毛を一本抜いて、親子が楽しそうに立ち去った空き地にそっと吹いてみました。「いっぱい咲くといいな」と、思いながら…。

季節が変わると空き地には小ぎれいな集合住宅が建ちました。女の子のタンポポは空き地には咲きませんでした。私の心にそのタンポポはしっかりと根付いて、今でもこの季節になると花を咲かせ続けています。

### 自然が教えてくれるもの

「春に百花あり、秋に月あり、夏に涼風あり、冬に雪あり。若し閑事の心頭に掛かる無くんば便ち人間の好時節」禅の教えを説いた古い書物の言葉です。春夏秋冬の姿は佛の教えを目の当たりに説いているのだから、そこに人間が自分勝手な思いや望みをさしはさまなければ、毎日が好時節、最高の日々の連続になる、という意味です。かたよりのない心で多くの事を感じ、日々の暮らしの中に活かしてゆく、そのことに気付かせてくれるのが自然の姿=佛の教え=に他ならないのです。

### 今まさに好時節

春は新しい心で一步を踏み出す季節、今まさに皆さんにとっての好時節です。タンポポの花言葉は「真実の愛」と「別離」でした。自然の教えてくれる佛法を通じて「自分さえよければいい」という心に別離して、「真実の心で生きる」という種子が皆さんの心に根付きますように。それを心より祈りつつ、「いっぱい咲け〜♪」